

土
35
102, 25

土木学会誌第三十五巻総目次

会 長 講 演	寄稿者氏名	号	頁
土木学会の進む道.....会長	工博 吉田徳次郎	6	1
報 文			
土木工事の科学的施工について.....会長	工博 吉田徳次郎	1	1
請負制度入札制度の合理化について.....正員	立花次郎	1	4
重力堰堤に作用する地震力の影響.....正員	畑野正	1	8
常盤線小貝川橋梁改良工事について.....正員	田中西倫治夫	1	13
多径間連続板の捩屈荷重の計算法(要旨).....正員	工博 倉田宗章	1	19
撓角法による4辺固定板の逐次近似解法(要旨).....正員	成岡昌夫	1	20
大阪市内環状線の一計画について.....正員	宮内義人	1	21
乗上り脱線防止法.....正員	高橋憲雄	1	26
空気連行コンクリートについて.....	藤井光蔵	2	1
カタ練りコンクリート圧縮強度試験標準方法の研究.....正員	工博 内山実	2	7
累進個人誤差.....正員	安東功	2	13
地震動を受ける桁の強制振動並にその震度への直交函数系の応用.....准員	安部清孝	2	17
コンクリートダムの滑動安定度について(要旨).....正員	畑野正	2	20
八戸港沈船防波堤の出来上る迄(Ⅱ).....正員	小松雅彦	2	22
台湾河公店溪の洪水調節貯水池の水理計算.....正員	川上謙太郎	2	27
鉄筋コンクリート固定版の経済的設計.....准員	後藤幸正	3	1
音響学的測定法によるコンクリートの強度の判定.....正員	樋口芳朗	3	6
舗装用廃材の再用についての試験報告.....正員	太田誠一郎	3	11
跳水路の水理的設計について.....正員	川上謙太郎	3	13
鋼構造物設計上の二、三の問題について.....正員	埴田清勝	3	16
利根川の現状.....正員	佐々木正久	3	18
土木工学の前途.....正員	工博 田中豊	4	1
土木工学のコア・カリキュラムについて.....正員	工博 藤井真透	4	2
カタ練りコンクリートの経済的設計法.....正員	工博 内山実	4	6
橋梁高欄の設計について.....正員	工博 福田武雄	4	12
泊港の埋没について.....正員	理博 速水頌一郎	4	19
	准員 立俊昭		
	准員 釘宮健二	4	23
大夕張鉱業所新斜抗セメント注入工事について.....正員	釘宮健二	4	23
弾性基礎にある梁の撓み振動に関する基礎的研究(要旨).....准員	後藤尙男	4	29
フィレンディール型二鉸拱橋の解法(要旨).....准員	内田一郎	4	31
行政の科学化について.....正員	末松栄	5	1
土建企業合理化の諸問題.....正員	宮沢吉弘	5	3
地上写真測量とその土木工学への応用(第1報).....正員	丸安隆和	5	8
構築物の撓み記録に対する補正について.....正員	工博 三瀬幸三郎	5	14
二重濾過法の設計について.....正員	安田卓治	5	18
今後のセメント注入の理論的傾向.....正員	釘宮健二	5	23
薄層流に関する研究〔第1報〕(要旨).....正員	工博 石原藤次郎	5	27
	准員 岩垣田一健		
	准員 合田健	5	28
沈澄池の浄化効率について(要旨).....准員	合田健	5	28
開発指数と道路密度.....正員	工博 藤井真透	6	5

編 集 報 告

学会誌は昭和 25 年 1 月から土木ニュースを合併して新発足したところ、会員諸兄の絶大なる御支援により通巻予定の 480 頁を遙かに超過し、毎巻平均 48.5 頁を毎月定期的に発行することが出来、漸く常態に立直ることが出来た。その他大変遅延し御迷惑をかけているが、論文集第 5 号 140 頁も漸く年末に発行し得た。第 35 巻に収録した論文は 87 篇で報文 67、資料 20 その他論文集に登載或は同予定の論文の要旨紹介 16 が主要なものであつた。報文 67 中には会長講演以下の各種特別講演及び特に依頼した論説等が 16 あり一般投稿論文は 51 篇であつた。

昭和 25 年中の受理原稿は 123 篇でその処理状況は次の通りである。(これは上述の登載の分とは別であり、登載済の分は第 36 巻 2 号登載決定の分を含む)

会誌登載済	報文	50	資料	22
審査済	報文	5	資料	2
審査中(含訂正中)		26		
撤回又は返送		18		

投稿原稿はなるべく迅速に処理するように努めているが、紙面の都合もあり相当数が発表出来ずにあるのをお詫びする次第である。

次に論文集について述べれば、第 4 号は昭和 24 年に投稿された論文を収録して漸く昨年末刊行することが出来た。続いて昭和 24.9~25.3 間の投稿のものを

第 6 号として本年 3 月末までには刊行する予定で準備している。論文集はなかなか経費その他の点から刊行が遅れ各方面に種々御迷惑をかけて相済みなく思っている。中には発表の順序が逆になるものも出来たが諒とせられ度い。論文集については会告にも発表した通り在来の方式によるものは一応第 6 号を以て打切り論文は総て会誌に登載することを原則とした。併し会誌の紙面は学会の経済即ち会員の経済等からして当分大きな増頁は不可能であるから、1 論文刷上り 4 頁だてを原則として投稿されるよう強く希望する。而て昭和 26 年は大体各号 48 頁だてとして、報文には 8 篇 32 頁位を充当する予定である。併しこれでは折角の論文も意を尽せぬものもあるので、出版費用の一部を著者に負担して載く制度を設けて既に第 7~9 号を出した。利用希望される方は詳細を問合せられ度い。

編集委員会に相談役として福田、本間、最上三博士を特別委員に委嘱して、編集の一般の問題並びに論文審査の顧問役をお願いしている。又各支部に地方委員を昨年より委嘱して、編集に対する注文、各種情報、投稿論文に関する連絡等をお願いしている。

最後に会誌の内容、体裁等編集に関する御注意特に講座、紹介等についての御意見をどしどしいただき度い。なお外国文献の抄録は証認の関係もあり資料が限られているので御諒承ありたい。(編集委員会)

編 集 後 記

会員の皆さま、新年お目出とう御座います。

本年も学会の為何卒宜しく御支援の程お願い申し上げます。

国際情勢益々多事多難という感じの 1951 年ですが、どのような場合でも自己を失はず、最善の努力を尽くしたいものです。年頭に当り会員各位の御発展を心から御祈り申し上げ後記にかえる次第です。

× × ×

本号の担当委員は伊丹、浜田、当銀、八十島の各氏でした。

昭和 26 年 1 月 25 日 印刷	土木学会誌	定価 80 円
昭和 26 年 1 月 30 日 発行	第 36 巻 第 1 号	
編集兼発行者	東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地	中 川 一 美
印刷者	東京都港区溜池町 5 番地	大 沼 正 吉
印刷所	東京都港区溜池町 5 番地	株式會社 技 報 堂
~~~~~		
東京都中央局区内千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話丸の内(23)3945番		
発行所 社 員 土 木 学 会 振替東京 16828 番		

路盤の支持力に関する土質力学的研究……………	正員	工博	谷 藤 正 三	6	7
堰堤コンクリートの自然熱放散及び人工冷却について……………	正員		藤 田 博 愛	6	13
網代港埋没に関する飛砂の影響について……………	准員		岩 垣 雄 一	6	19
国土開発の基本問題……………	正員	工博	安 芸 皎 一	7	1
トラスの変位について……………	正員		近 藤 繁 人	7	5
開水路における乱流の縦平均流速分布について……………	正員		久 宝 保	7	9
港湾潮流観測に地上写真測量の利用……………	正員		真 嶋 恭 雄	7	14
滲透水流の電氣的計測について……………	准員		丹 羽 義 次	7	18
自動車の内側車輪の走行軌跡について……………	正員		樋 渡 正 美	7	21
日本学術会議の現況について……………	正員	工博	田 中 豊	8	3
米国水力発電所調査報告……………	正員		市 浦 繁	8	5
モーメント分配法の二方向板の解法への応用について……………	正員		成 岡 昌 夫	8	8
地上写真測量とその土木工学への応用(第2報)……………	正員		丸 安 隆 和	8	15
地震の強さを決定する要素について……………	正員		畑 野 正	8	21
中角橋振動試験とその震害機構の考察……………	正員	工博	石 原 藤 次 郎	8	25
	正員	工博	小 西 中 藤 元 尚 弘 男		
	正員		後 藤 尚 弘		
	准員		田 中 茂		
急斜面土壌浸蝕の実験的研究〔第1,2,3報〕(要旨)……………	正員		田 中 茂	8	29
河川工学における最近の基礎的諸問題……………	正員	工博	石 原 藤 次 郎	9	1
最近における米国の土木工事について……………	正員		種 谷 実	9	7
スタヂア測量の簡易化……………	正員		西 川 繪 一 夫	9	11
	准員		岡 野 兼 一		
敷設レールの活荷重応力について……………	正員		八 十 島 義 之 助	9	15
	准員		峯 村 芳 郎		
溶接軌道に関する一考察(要旨)……………	正員		小 林 勇 弘	9	20
	准員		浜 口 篤		
基礎地盤応力の新図解法(要旨)……………	正員		松 尾 新 一 郎	9	21
変垂曲線アーチの新軸線公式〔第1報〕(要旨)……………	正員		武 田 英 吉	9	22
土木技術者の進むべき道……………	正員	工博	松 尾 春 雄	10	1
最近における米国の土木工事について(続)……………	正員		種 谷 実	10	5
橋脚に関する流体力学的研究(第1報)……………	准員		杉 本 修 一 裕	10	9
	准員		稲 田 裕		
コンクリートの単純引張強度と曲げ引張強度について……………	准員		岡 田 清	10	12
開水路における浮游流砂の分布について……………	准員		合 田 健	10	17
モルタルの耐熱強度……………	正員		木 村 惠 雄	10	23
恵川新橋(全溶接橋)工事について……………	正員		竹 下 春 見 功	10	28
	准員		和 氣 功		
“土の塑性理論”に対する COENEN 博士の討議に答う(要旨)……………	正員	工博	星 埜 和	11	1
河川の洪水調節計算法とその応用について……………	正員		金 丸 正 春	11	6
溶接継手の龜裂の定量化について……………	正員		奥 村 敏 惠	11	11
	准員		佐 藤 光 春		
レールのねじれの理論について……………	正員		八 十 島 義 之 助	11	15
一般剛節構造物の解法及びその極限状態附近における性状 について(要旨)……………	正員	工博	小 西 一 郎	11	19
開水路不等流の系統的な計算法……………	正員	工博	本 間 仁	12	1
地上写真測量用乾板とその処理について……………	正員		丸 安 隆 和	12	4
単純梁の衝撃実験……………	正員	工博	岡 本 舜 三	12	8
	准員		安 中 久 二		
薄層流に関する研究〔第2報〕……………	准員		岩 垣 雄 一	12	10

プレストレストドコンクリートとクリープ.....	正員	久保慶三郎	12	15	
宇野—高松間客貨航送設備工事について.....	正員	石田一郎	12	19	
	准員	村田良平			
		富田善明			
鋼筋コンクリート桁の設計法に関する実験的研究(要旨).....	正員	工博 仁杉	12	24	
新旧コンクリートの打継目に関する研究(要旨).....	正員	工博 国分	12	25	
<b>資 料</b>					
三峯山空中索道.....		編 集 部	1	32	
TVAについて.....		編 集 部	2	37	
水の耐荷力.....	正員	原田千三	2	37	
海外技術導入計画について.....	正員	今沢豊正	3	30	
栃木県の震災に関する概報.....	正員	光藤康明	3	33	
瀬田川橋梁改良工事.....		編 集 部	5	35	
基礎井筒設計について.....	准員	根橋明	5	35	
アンチクリパーの造り方及びその合理的はめ込具合.....	正員	外山繁太郎	5	38	
国産コンクリートポンプ.....	正員	奥野正和	5	39	
国土総合開発法について.....	正員	今沢豊正	6	26	
光電管による土の中の圧力測定.....	正員	森 大吉郎	6	29	
	准員	富田文治			
我国消防水利の現況.....	正員	岩間一郎	6	31	
AEコンクリートに関する資料.....		編 集 部	7	25	
産業技術開発金庫について.....	正員	中原寿一郎	8	32	
発電用ダム設計内規.....		電力局水力課	8	34	
不規則断面の一次率及び二次率の加法のみによる数値計算法.....	准員	村田保	8	24	
広島市相生橋の原爆被害について.....	准員	角田孝志	9	26	
SR-4 歪計について.....	正員	成岡昌夫	9	28	
流量曲線式の整定について.....	正員	高畑政信	9	32	
最近の米国道路橋設計示方書について(1).....	正員	小西一郎	10	34	
水圧鋼管の肉厚測定について.....	正員	神谷貞吉	10	38	
不静定値の選び方について.....	正員	近藤繁人	11	25	
最近の米国道路橋設計示方書について(2).....	正員	小西一郎	10	27	
公共測量から除外される測量の範囲について.....		編 集 部	11	31	
土堰堤の浸透に関するホドグラフ法紹介.....	正員	久保田敬一	12	28	
名古屋に於ける10分間の最多降水量について.....	正員	坂元左馬太	12	31	
建設工事の入札制度の合理化対策について.....		中央建設業審議会	12	33	
<b>寄 書</b>					
コンクリートの超音波試験装置の試作.....	正員	丸安隆和	7	28	
		表山崎			
		良雄			
高速道路の建設を急げ.....	正員	近藤謙三郎	11	22	
<b>抄 録</b>					
河や貯水池を伝わる非周期性の波.....	1	28	水の耐荷力(Ⅱ).....	3	25
アルミニウム橋の設計方針.....	1	29	現場試験図表によるAEコンクリートの		
Garrison ダム及び貯水池について.....	1	30	強サ.....	3	28
アメリカで初めて造られるプレスト			戦後における各種セメントの物理的性質		
レスト・コンクリート道路橋.....	1	31	について.....	3	29
AEコンクリートに関する文献.....	2	30	小名浜港の遮蔽に関する実験.....	3	29
Bull Shoals Damについて.....	2	31	流速計係数検定成績に関する報告.....	3	29

米国におけるコンクリートダムと	
建設機械の発達の回観	4 31
人工的土地凍結掘進法	4 36
杭の設計長と支持力についての検討	5 30
精密電気発破について	5 30
最近に於ける鉄道軌道の力学的測定	5 32
建設省直轄工事第3回技術研究報告	5 34
建設省土木研究所彙報(第10~12号)	5 34
今後の橋梁材料「アルミ合金」	6 34
アメリカの軌道検測車	6 34
平板の曲げに関する一問題	6 35
建設機械用14立ディーゼルエンジンの 試作完成	7 31
鉄筋コンクリート床版とI型鋼とを合成 桁として作用させるために必要な設計上 の諸問題	7 32
地震に対する設計の一方法	8 36
Carbide Insert Rock Bit	8 37
深い砂利層のダム地点で、漏水をとめる 為に行うセメント注入工法について	8 39

海岸浸蝕と海岸防護	8 39
Zeebrugge, Ostend 両港の模型実験	8 41
5本のトンネルから成る地下鉄駅	8 41
世界最大のテンダーゲート	9 34
Prepakt Concrete について	9 35
基層下の軟弱シルトによるグレン国道 (アラスカ)の被害	10 41
コンクリートがデスクリートになる時期	10 42
Tecolote Tunnel	11 33
ボトマツク谿谷管理地区は汚泥対策を講 じている	11 33
杭打ちに於ける新考案の電気測定器	11 35
ミシシッピー河上に架けられる 1000 万 弗の有料橋	12 37
入札により水底トンネルの工費15%節約	12 38
パーカーダムの補強工事について	12 39
Delaware 水道は計量と調節の装置に多 くの新しい形式を取り入れている	12 41

講座

土質力学Ⅰ	最近の土質力学的管見(1)	正員	工博	最上武雄	1 38
〃	最近の土質力学的管見(2)	正員	工博	最上武雄	2 43
土質力学Ⅱ	土質試料の採取とその分類試験(1)	正員		福岡正己	3 43
〃	土質試料の採取とその分類試験(2)	正員		福岡正己	4 43
土質力学Ⅲ	土の工学的性質とその試験(1)	正員		斎藤迪孝	5 42
〃	土の工学的性質とその試験(2)	正員		斎藤迪孝	6 36
洪水特論Ⅰ	序論	正員	工博	本間仁	7 30
洪水特論Ⅱ	雨(1)			大道寺重雄	8 43
〃	雨(2)			大道寺重雄	9 37
洪水特論Ⅲ	洪水の流失	正員		竹内俊雄	10 43
洪水特論Ⅳ	洪水波の問題	正員		本間仁	11 37
洪水特論Ⅴ	洪水貯水池	正員		伊藤剛	12 43

創立明治四十年土木建築業

# 鐵道工業 株式會社

隧道・橋梁・道路建設其ノ他  
各種一般建築工事

取締役会長 菅原通濟

取締役社長 菅原寿雄

本店 東京都中央区銀座西六ノ六 (鉄工ビル)  
電話銀座(57) 120・695・1203・1412・4700

支店 札幌, 仙台, 福岡, 営業所 大阪, 高知  
其ノ他 出張所, 作業所, 全国数十箇所

## 学会取次図書について

本会では学会誌に毎月新刊紹介欄を設け、土木関係良書の普及を計っておりますが、関係出版社とも連絡の上各圖書の取次をいたしております。現在下記の書籍を取扱っておりますから、御希望の方は代金を添えて御申込下さい。

取次書籍一覽表

	書 籍 名	定 価	著 者 名	発 行 所	送 料
1	発電水力参考図集 1.	¥ 180.		建設技術研究所	¥ 15.
2	コンクリート及鉄筋コンクリート参考図集 2.	150.		"	15.
3	" 3.	180.		"	15.
4	土木施工機械参考図集 4.	180.		"	15.
5	港湾参考図集 5.	200.		"	15.
6	測量学 (上卷)	180.	丸安隆和	コロナ社	20.
7	" (下卷)	280.	"	"	30.
8	最新都市計画 (上卷)	600.	レービス	"	40.
9	基礎の支持力論	280.	星埜和	"	30.
10	応用力学	450.	山口昇	アールス	40.
11	河川工学	350.	末松榮	森北出版株式会社	25.
12	高水工学	250.	日笠育夫	"	25.
13	標準材積表	150.	農林省山林局編	"	15.
14	鉄道鋼橋設計資料	250.		科学技術弘報協会	30.
15	現場土質試験法	150.	谷藤正三	全日本建設技術協会	15.
16	山・旅・人・学	200.	山口昇	柏葉社	20.
17	技術と哲学	150.	平山復二郎	理工図書株式会社	30.
18	測量野帳	80.		"	10.
19	土木日記	110.		"	10.
20	道路の設計とその実例	200.	有馬博雄	"	30.
21	土工法資料	300.	磯崎傳作	"	30.

# 合 告

## 1. 土木工学論文抄録第3集予約申込受付

34巻3号に大綱を發表し、刊行物申込票により予約申込を受付ました処、相当数の御申込がありました、なほ予定数に達しませんので資金の関係上一度に3,4集として發刊出来ませんので、分冊の上取敢えず第3集のみ刊行することに致しました。次の要領により、切日厳守の上奮つて御申込下さい。予約以外は頒價が高くなります。

1. 内 容 昭和13年から約5年間の論文(第4集は9月頃發刊の見込)
2. 体 裁 A・4判 200頁程度
3. 頒布實費 500円(〒60円)  
會員で予約者に限り 350円(〃)
4. 申込要領 2月末日までに代金(送料を含む)を添え学会宛御申込のこと。

## 2. 會員名簿予約申込について

前号会誌に昭和24年度會員名簿予約申込を發表以來、続々注文が來て居りますので、切期日を延長し多数御申込を願う事にいたしました。予約部数が多い程價格が割安になりますから1冊でも多くお早く御申込下さい。

1. 体 裁 A・5判 300頁程度
2. 頒布實費 予約頒布 會員 100円 會員外 200円
3. 發行予定 2月末日
4. 申込要領 2月末日までに(代金送料を含む)を添え学会宛御申込のこと。送料はまともれば安くなります。

## 3. 『鉄道線路』の發刊と御申込について

お待兼ねの土木工学業書の中、運輸審議會委員 岡田信次博士著『鉄道線路』が刊行されます。部数に限りがありますので、御希望の方は次の要領により何卒奮つて御申込下さい。まとまつた御申込の場合は送料が安くなります。

1. 体 裁 B・5判上製
2. 定 價 一般 350円(送料70円)  
會員 333円(〃)
3. 申込要領 上記金額を学会叢書係までお拂込次第直ちに發送致します。

## 12月入退会報告

11月8日  
12月15日

入 會 70名(正 25名、准 39名、學 5名)

退 會 31名(正 8名、准 16名、學 8名)

轉 格 47名(准一正 37名)

大島 義一、 鎌田 茂之、 熊谷 平造、 増川 通、 飯島哲之助、 大里 誠、 志村 太郎、 田中平治郎、 淺谷 克巳  
吉田 知道、 野坂 純三、 松本 有、 佐藤 裕、 猪股 俊司、 田中 倫治、 赤澤 稔、 西亀 達夫、 野崎 治八  
齋藤 油孝、 前川 治、 釘宮 健治、 佐藤 春吉、 吉澤 正元、 泰地 茂夫、 目黒 正二、 館 政治、 仁平 駿富  
村岡 眞吾、 中村 稔、 梨地 敏雄、 安山 信雄、 高田 茂、 横尾 義貴、 巳斐 一郎、 杉山 紀、 高木 廣志  
前島 健雄

(學-准 10名)

北村 西行、 川島 博、 笠原 幸男、 山田 橙吉、 佐々木十二、 大塚 武男、 池田 宏、 山本 幸生、 木倉 昇二  
百石 勝

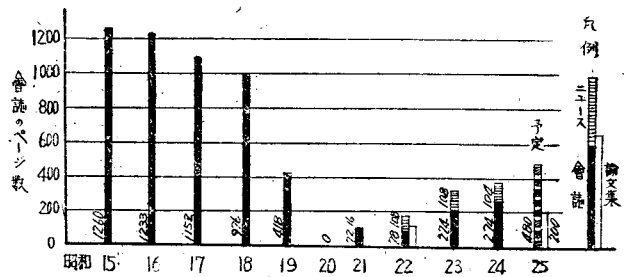
## — 再 建 の 時 に あ た り て —

焼跡にも五たび春がめぐつて来た。赤さび色に焼けたがれ崩れ落ちて、人つ子一人通らなかつた広野は、年ごとに萌えでる緑の芽が濃さを加え、町々はバラックながら軒をそろえて、日毎に賑いを呈している。過ぎ去つたものは凡て廃虚の瓦礫の如く跡かたもなく片付けられて、一切のものをあげて、新たに出直すべき時が来た。

土木学会誌にも遅ればせながらようやく再建の時が来たようである。本年は土木ニュースの合併を機に構想を新たに、内容を刷新充実した会誌を毎月発行する計画を樹て、編集部内に企画小委員会を設けなどして前々から準備を進めていたが、新年を期してその実現を図つて行くこととなり、本号を以てその再出発を祝う記念号としたい意気込みなのである。

これまで年ごとに発行されてきた会誌について回顧して見ると、戦前はかなり充実した内容を持ち、学術的價値の高い論文も多かつたが、とかく一般会員に親しみにくい感じを與えがちであつた。戦争の打撃はまことに恐るべき激しさであつた。今最近 10 年間の会誌発行高を年間の総ページ数で出してみると、図のようになる。戦前の 1250 頁程度から、終戦の年 20 年には 0 と急カーブで轉落しており、その後の回復の足どりはきわめて遅いが、昨 24 年はたとえ低い目標ではあつたにしろほぼ既定計画を実現し、会誌 274 頁、新聞 52 頁、論文集 318 頁を発行することができた。

この図から推してみると、今年の会誌 12 号 480 頁はさほど実現のむつかしい計画ではないように見える。然し新しい企画によつて充実した親しみ易い内容の会誌を送り出すには、少くとも次の三つの條件が常に満されていることが必要である。その一は素材としての原稿が質量ともに豊かに準備されていることであり、その二は素材を組み立て紙面を構



# D O B O K U - G A K K A I - S H I

VOL. XXXV, NO. 1, JAN. 1950

(JOURNAL OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS)

### C O N T E N T S

Papers	Page
On the Scientific Execution of Civil Engineering Works .....T. Yoshida, Dr. Eng. President .....	1
On the Rationalization of Bidding System for Construction Work Contract .....J. Tachibana.....	4
Influence of Seismic Forces Acting on a Gravity Dam .....T. Hatano.....	8
On the Improvement of Kogai-Gawa Bridge on Joban Line .....T. Tanaka & T. Nishiki.....	13
Buckling of Continuous Multiple-Span Slabs (Abstract) .....M. Kurata .....	19
On the Successive Approximate Solution of a Rectangular Plate (Abstract) .....M. Nanoka .....	20
A Plan for a Circular Rail Line in Osaka City .....Y. Miyauchi .....	21
Preventive Measure Against Ride-Over Derailment .....N. Takahashi .....	26
<b>Abstracts</b> .....	28
<b>Reference Data</b> .....	32
<b>Lecture</b> .....	38
<b>Voice</b> .....	40
<b>News</b> .....	44

### O F F I C E

NO. 4 OTEMACHI 2-CHOME, CHIYODA-KU, TOKYO, JAPAN.



